

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

|         |       |       |           |         |
|---------|-------|-------|-----------|---------|
| 現金      | 普通預金  | 当座預金  | 売掛金       | 未収入金    |
| 前払金     | 手形貸付金 | 備品    | 差入保証金     | 買掛金     |
| 未払配当金   | 前受金   | 手形借入金 | 備品減価償却累計額 | 資本金     |
| 繰越利益剰余金 | 利益準備金 | 売上    | 受取利息      | 固定資産売却益 |
| 仕入      | 支払手数料 | 発送費   | 固定資産売却損   | 減価償却費   |

- 福岡商事株式会社に資金 ¥1,040,000 を貸し付けるため、同社振出しの約束手形を受け取り、同日中に当社の当座預金口座より福岡商事株式会社の銀行預金口座に同額を振り込んだ。なお、利息は返済時に受け取ることにした。
- X6年4月6日に購入した備品（取得原価 ¥480,000、残存価額ゼロ、耐用年数5年、定額法で計算、間接法で記帳）が不用になったので、本日（X9年11月25日）¥160,000 で売却し、代金は2週間後に受け取ることにした。また、決算日は3月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。
- 新規出店のためにビルの1階部分を1か月当たり ¥144,000 にて賃借する契約を結んだ。契約にあたり、敷金（家賃の2か月分）および不動産業者に対する仲介手数料（家賃の1か月分）を、小切手を振り出して支払った。
- 株主総会で繰越利益剰余金 ¥1,440,000 の一部を次のとおり処分することが承認された。  
株主配当金：¥240,000  
利益準備金の積立て：¥24,000
- 得意先島根商事株式会社より注文のあった商品 ¥168,000（原価 ¥117,600）を発送し、代金のうち ¥40,000 は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は掛けとした。なお、商品の発送費用（当社負担）¥4,800 を運送会社に現金で支払った。

第2問 (10点)

取引先に対して、前期の12月1日に ¥800,000 を、期間2年、年利率3%、利払日5月および11月末日の条件で貸し付けた。当期中の受取利息に関する諸勘定の記入は、次のとおりであった。各勘定に記入された取引等を推定し、イ～ホには適切な語句を、a～eには適切な金額を記入しなさい。なお、利息は利払日にすべて現金で受け取っている。

会計期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。未収利息は、月割計算によって求めなさい。

| 受取利息         |              | 未収利息         |              |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 4/1 (イ) ( )  | 5/31 現金 (a)  | 4/1 前期繰越 (c) | 4/1 (ニ) ( )  |
| 3/31 (ロ) ( ) | 11/30 " ( )  | 3/31 ( ) ( ) | 3/31 (ホ) ( ) |
|              | 3/31 (ハ) (b) |              | (d)          |
|              | ( )          |              |              |
|              | ( )          |              |              |
| 損益           |              |              |              |
|              | 3/31 ( ) (e) |              |              |

### 第3問 (30点)

次の資料 (A) および (B) にもとづいて、答案用紙のX9年4月末の残高試算表を作成しなさい。会計期間は1年、決算日は3月31日である。なお、ICカードへのチャージ(入金)を行ったさいには仮払金勘定で処理し、使用時に適切な費用の勘定へ振り替えている。また、各取引の中には他の取引欄の記入内容と重複しているものが含まれているので注意すること。

(A) X9年3月31日の貸借対照表

| 資 産  | 金 額       | 負債・純資産    | 金 額       |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 現金   | 576,000   | 支払手形      | 1,040,000 |
| 当座預金 | 1,600,000 | 買掛金       | 1,340,800 |
| 受取手形 | 704,000   | 貸倒引当金     | 119,200   |
| 売掛金  | 1,680,000 | 未払費用      | 12,000    |
| 商品   | 1,440,000 | 備品減価償却累計額 | 256,000   |
| 前払費用 | 48,000    | 借入金       | 1,200,000 |
| 備品   | 640,000   | 資本金       | 2,400,000 |
|      |           | 繰越利益剰余金   | 320,000   |
|      | 6,688,000 |           | 6,688,000 |

(B) X9年4月中の取引

#### 1. 売上げに関する事項

- a. 掛売上げ ¥1,760,000 (このうち、¥6,400分は返品された)
- b. 約束手形の受取りによる売上げ ¥400,000
- c. 小切手の受取りによる売上げ ¥1,040,000 (小切手は、ただちに当座預金口座に預け入れた)

#### 2. 仕入れに関する事項

- a. 掛仕入れ ¥1,200,000 (このうち、¥40,000分は返品した)
- b. 約束手形の振出しによる仕入れ ¥800,000
- c. 小切手の振出しによる仕入れ ¥720,000

#### 3. 当座預金に関する事項

- a. 得意先より受け取った小切手の預入れ ¥1,040,000
- b. 売掛金の回収 ¥1,120,000
- c. 約束手形の期日入金 ¥560,000
- d. 前期に貸倒処理していた売掛金の回収 ¥8,000
- e. 商品の仕入れ ¥720,000
- f. 買掛金の支払い ¥896,000
- g. 約束手形の期日支払い ¥280,000
- h. 借入金元利合計の支払い ¥416,000 (このうち、利息は¥16,000である)

#### 4. 現金に関する事項

- a. 給料の支払い ¥80,000
- b. 保険料の支払い ¥72,000
- c. ICカードへのチャージ ¥40,000

#### 5. ICカードに関する事項

- a. 現金からのチャージ ¥40,000
- b. 電車での移動による使用 ¥20,000
- c. 消耗品の購入による使用 ¥12,000

#### 6. その他の事項

- a. 再振替仕訳を行う。貸借対照表中の前払費用は保険料の前払分、未払費用は利息の未払分である。
- b. 前期に発生した売掛金の貸倒れ ¥4,800

#### 第4問 (8点)

取引銀行のインターネットバンキングサービスから普通預金口座のWEB通帳(入出金明細)を参照したところ、次のとおりであった。そこで、答案用紙の各日付において必要な仕訳を答えなさい。ただし、勘定科目は、下記の【勘定科目】の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。なお、株式会社佐賀商事および長崎商会株式会社はそれぞれ当社の商品の取引先であり、商品売買取引はすべて掛けとしている。

| 入出金明細 |                 |         |         |      |
|-------|-----------------|---------|---------|------|
| 日付    | 内容              | 出金金額    | 入金金額    | 取引残高 |
| 10.16 | ATM 入金          |         | 160,000 | 省略   |
| 10.17 | 振込 カ) サガシヨウジ    | 240,000 |         |      |
| 10.18 | 振込 ナガサキシヨウカイ (カ |         | 299,500 |      |

10月18日の入金、当社負担の振込手数料¥500が差し引かれたものである。

#### 【勘定科目】

現 金      普 通 預 金      売 掛 金      買 掛 金      支 払 手 数 料

#### 第5問 (32点)

次の【決算整理事項等】にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間はX8年4月1日からX9年3月31日までの1年間である。

#### 【決算整理事項等】

1. 現金の手許有高は¥116,000である。なお、過不足の原因は不明であるため、適切な処理を行う。
2. 普通預金口座から買掛金¥28,800を支払ったが、この取引の記帳がまだ行われていない。
3. 仮受金の残高は、決算直前に得意先より受け入れた内容不明の入金であったが、その全額が売掛金の回収であることが判明した。
4. 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
5. 商品の期末棚卸高は¥164,000である。売上原価は「売上原価」の行で計算すること。
6. 建物（耐用年数30年、残存価額は取得原価の10%）および備品（耐用年数5年、残存価額ゼロ）について、それぞれ定額法により減価償却を行う。
7. 保険料は、当期の12月1日に支払った店舗に対する1年分の火災保険料である。よって、未経過高を月割計算により計上する。
8. 支払利息の決算日までの未払額が¥1,600ある。
9. 手数料の未収分が¥2,400ある。